

1735. 確率法則ノ分解問題, III

北川 敬男 (阪大)

確率法則ノ分解問題ニ関スル基本的ナ結果トシテ、
Khintchineノ基本定理ヲ擧ゲタ (§2)。ソノ証明ニ
先チ、前回ハ、無限ニ分解可能ナ確率法則ノ一般形式ヲ述ベ
(§3)、ソレカラ無限ニ分解可能ナ確率法則全部ノ集合
Ofニ於ケル *Arithmétique*ヲ述ベタ。今回ハ、無限
ニ分解可能ナ確率法則トイハベ對蹠的ニ關係ニアル分解不可
能ナ確率法則ニツイテ調べテミヨウ。

§5. 分解不可能ナ確率法則⁽¹⁾ (或ハ恣ニル確率法
則) 確率法則ガ分解不可能ナルタメノ必要條件ハ何方、
コレニツイテハ未ダ殆んど分ツテ居ラナイヤウデアアル。又充
分條件トシテモ、極メテ初等的ナ事ガ断片的ニ得ラレテ居ル
ヤウニ過ギナイヤウデアアル。將來ノ研究ニ俟テネバナラヌコ
トガ極メテ多イ。茲ニハ、Lévyノ論文ニ依ヒ断片的ニ結
果ヲ羅列スルニ止メヨウ。

便宜上テ、言葉ヲ用ヒル：或ル確率変数 X ニ関シテ實數

(1) P. Lévy: *L'arithmétique des lois de probabilité.*
Journ. Math. Pures et appliquées (1938) 及ビ

A. Khintchine: *Contribution à l'arithmétique des lois de distribution* *Bulletin de*
U. E. Moskou (1937) ニ由ル。

x が 可能値 (*value possible*) トイフ、ハ、任意ノ正数 ε = 對シテ $|X - x| < \varepsilon$ トナル確率が正数ナルコトヲ意味スル。

次 = $\text{Pr.} [X = x] > 0$ ナラバ、 X = 對シテ x ハ正ナル確率ヲモツトイフ。 U, V が相互 = 独立ナル確率変数ナルナラバ、 $U + V$ ノ可能値、全体ハ、 U ノ任意ノ可能値ト V ノ任意ノ可能値トノ和ヲ、アラユル組合セ = 就イテツクツタモノノ全体 = 外ナラナイ (尤モ、異ツク組合セ = 對應スル $U + V$ ノ値ガ偶々、相等シイコトニ起リ得ヤウ) 同様ナコトカ正ナル確率ヲモツ値ノ集合 = 就イテモ成立スル。

又 U, V = 對シテ正ナル確率ヲモツ値ガ夫々、 p 度ノ個、 q 度ノ個ナルトスルト、 U, V が相互 = 独立ナトキ、 $U + V$ = 對シテ正ナル確率ヲモツ値ハ少クモ $p + q - 1$ 個アリ、多クトモ $p + q$ 個ヲ越ヘナイ。(証: 假リ = $p \geq q$ トシヨウ。 $u_1 < u_2 < \dots < u_p, v_1 < v_2 < \dots < v_q$ ナルハ、夫々 U, V = 對シテ正ナル確率ヲモツ値トスル。

$u_1 + v_1, u_1 + v_2, u_2 + v_2, u_2 + v_3, u_3 + v_3, u_3 + v_4, \dots, u_q + v_q$ ツクリ、更 = $u_{q+1} + v_q, u_{q+2} + v_q, \dots, u_p + v_q$ ツクリ。コレヲ $p + q - 1$ 個ハ、確カ = 相異ツテ居ル (増加数列ヲナス)。"多クトモ" ノ余ハ自明)

以上) ヲウナ極メテ簡單幼稚ナコトナラ、次ノ事ガ導カレル。

(I) 命題不可能ナキノ充分條件:

定理 5. 確率変数 X の可能値、差が悉く相異ル

トキ、即ち X 、任意、四ツノ可能値 x_1, x_2, x_3, x_4
 $=$ ツイテ、 $x_2 - x_1 = x_4 - x_3$ が成立ツノハ、 $x_1 = x_3$ 且
 ツ $x_4 = x_2$ ナル場合ニ限ル時、 X ノ従フ確率法則ハ分解
 不可能ナル。

証明: 今假リニ、 X が、共ニ單位法則 (§1) ナリ (従
 ヲテ可能値が少クモ二ツ存在スル)、相互ニ独立ナ U, V
 ノ和ヲ分解スレタトスル。 U, V ノ可能値 $u_1, u_2; v_1,$
 $v_2 =$ 對シテ $x_1 = u_1 + v_1, x_2 = u_2 + v_1, x_3 = u_2$
 $+ v_1, x_4 = u_2 + v_2$ トオケバ假定ニ矛盾スル [証
 終]。

例: X ノ可能値ハ $\{x_n\}$ ($n=1, 2, 3, \dots$) ナ
 $x_p - x_q = x_{p'} - x_{q'}$ トナルノハ $p = p', q = q'$ トキ
 $=$ 限ルトスレバ、明カニ定理 2 ノ假定ヲ満足スル。例ヘシ
 $x_n = \log p_n$ [p_n ハ n 番目ノ素数]

(II) 素因子 (facteurs indécomposables)

ノ數: 分解不可能ナ確率法則ニ關聯シテ次ノコトガ問題
 $=$ ナラウ: 即チ與ヘラレタ確率法則ガ分解不可能ナ確率法
 則ノ積ニ分解出来ルトキ、ソノ分解不可能ナ確率法則即チ素
 ナル確率法則ノ個數ノ最大値ヲ求ムルコトナル。コレニ關
 シテ次ノ様ナコトガ知ラレテ居ル。

$X =$ 對スル可能値が悉ク $\log N$ ノ形、(N ハ高々 ρ
 個ノ素數ノ積) ナルナラバ、 X ノ従フ確率法則ヲ確率法則
 ノ積ニ分解スルトキ、 ρ ノ因子數ハ高々 ρ ナル。又 $X =$

對スル可能ナ値ガ悉ク $\log \frac{N}{N'}$ ノ形 (N, N' ハ共ニ、高々 p 個ノ素數ノ積) ナラバ、 Σ ノ從フ確率法則ヲ確率法則ノ積ニ分解スルトキ、ソノ因子數ハ高々 2 p ナル。(Levy) 証明ハ定理 5 ノソレニ準ズレバ宜シイ。

(III) 本質的ニ異ナル分解: 或ル確率法則ノニツノ分解 ϕ , ϕ' = 於テ、 ϕ ノ各因子 (facteurs) ノ夫々ニ適當ナ單位法則ヲ掛ケルコトニ依リ、 ϕ' ヲ得ルトキ (但シ、ソノ際因子ノ順序トイフコトハ考慮ニ入レナイデヨイコトハ勿論ナル)。 ϕ ハ ϕ' ト單ニ外見上異ナル分解ナル。或ハ本質的ニ同じ分解ナルトイフ、(コノ概念ガ同値ノ三律ヲ満足シテ居ルコトハ明ラカナル)。次ニ、ニツノ分解ガ 本質的ニ異ナル (essentiellement différentes) 分解ナルトイフノハ、 ϕ, ϕ' ガ共ニ或ル分解 ϕ'' カラ、夫々何かノ方法ガ適當ニククリ合ス事 (groupements) = 依ツテ、單ニ外見上異ナル分解ニモチ來ラシ得ルトイフヤウナ ϕ'' ノ存在シナイコトヲ意味スルノナル。確率法則ノ分解問題ニ於テハ、異ナル分解トイヘバ、ソレハ本質的ニ異ナル分解ヲ意味スル。單ニ外見上異ナルモノヲ區別スルノハ無意義ナル。

映ヘラレタる確率法則ニ對シテ、本質的ニ異ナル分解ガ幾通りナルカ、コレガ又重要ナ向題トナルデアロカ。コレニ関シテモ未ダ殆ド分ツテ居ラナイ様ナル。

0, 1, 2, -----, $p-1$ ヲ夫々確率 $1/p$ ナトル確率変

数 \sum_p の確率法則 (特性函数) を $f_p(u)$ ($u = e^{it}$) で表
 へし、即ち

$$L_p: f_p(u) = \frac{1}{p} (1 + u + \dots + u^{p-1}) = \frac{1 - u^p}{p(1 - u)}$$

然るに、 $f_{pq}(u) = f_p(u) f_q(u^p) = f_q(u) f_p(u^q)$ であ
 るから、

$$\sum_{pq} \sim \sum_p + p \sum'_q \sim \sum_q + q \sum'_p$$

とす。茲に \sum_p と \sum'_q とは独立、 \sum_q と \sum'_p とは独立であ
 る。

〔例へん $p=2, q=3$ とすれば $(0 \text{ on } 1) + (0 \text{ on } 2 \text{ on } 4) \sim (0 \text{ on } 1 \text{ on } 2) + (0 \text{ on } 3)$ とす〕。 $p=2, q=3$
 の場合、本質的 = 異なる分解が得られる。

$$n = p_1^{\alpha_1} p_2^{\alpha_2} \dots p_k^{\alpha_k} \quad (\alpha_1 + \alpha_2 + \dots + \alpha_k = k; p_1, p_2, \dots$$

$\dots, p_n \dots$ 相異なる素数) とす。 L_n は、丁度 $k! / (\alpha_1! \alpha_2! \dots \alpha_k!)$ 個の本質的 = 異なる分解がある。(証明
 は容易である)

以上、極めて容易 = 看られる事柄を述べ置かざる。本
 節の (I), (II), (III) の各々 = 於てモット違ふ結果を得られ
 居るが、其々の証明が述べたいから、コレヲコト = 報告
 スルコトハ差控へず。

§ 6. [挿記] 確率法則 / *arithmétique* /
 複雑ヲ示スニ三ノ面白い例ヲ挙ゲヨリ:

例 1 $L = L, L_2 = L', L_2' \text{ とす。而して } L_1 \text{ が}$

$\mathcal{L}' = \text{依ツテ} \in \text{或ハ} \mathcal{L}'_2 = \text{依ツテ} \in \text{分解サレナイ例 (Lévy):}$

今 X ハ $[0, 1]$ デ一様分布ヲナス確率変数トシ、 $2X_1$,
 $2X_2$, $3X'_1$, $3X'_2$ ハ夫々 $2X$ ノ整数部, $2X$ ノ小数部,
 $3X$ ノ整数部, $3X$ ノ小数部ヲ表ハス確率変数トシ、 X_1, X_2 ,
 X'_1, X'_2 ノ確率法則ヲ夫々、 $\mathcal{L}_1, \mathcal{L}_2, \mathcal{L}'_1, \mathcal{L}'_2$ トスレバ、
 X ト X_2 , X' ト X'_2 ハ夫々独立デ $X - X_1 + X_2 = X'_1 + X'_2$;
依ツテ $\mathcal{L} = \mathcal{L}_1, \mathcal{L}_2 = \mathcal{L}'_1, \mathcal{L}'_2$.

然ルニ \mathcal{L}_1 ハ $\mathcal{L}'_1 = \text{依ツテ} \text{分解出来ナイ}$. 今假リニ分解出来タトスルト $\mathcal{L}_1 = \mathcal{L}'_1 \mathcal{L}''_1$ (\mathcal{L}''_1 ハ單位法則デナイ) トナル。 $\mathcal{L}'_1 = \text{従フ} X'_1$ ノトル値ハ $0, 1/3, 2/3$ ノ三ツ、 $\mathcal{L}''_1 = \text{従フ} \in, \in, \text{少クモ二ツノ相異ナル不可能値ヲモツ}$ 。依ツテ X_1 ハ少クモ三ツノ相異ナル可能ナ値ヲモタネバナラス。コレハ事實ニ反スル。次ニ \mathcal{L}_1 ハ $\mathcal{L}''_2 = \text{依ツテ} \text{分解出来ナイ}$. 蓋シ、 X'_2 ノトル値ハ長サ $1/3 < 1/2$ ノ区間ニ分配サレテ居レカラデアル。

例 2 $\mathcal{L} = \mathcal{L}_1, \mathcal{L}_2$, \mathcal{L}_1 が定マツテ \mathcal{L}_2 が唯一ツニハ定マラヌ例 (Lévy) $f_1(t), f_2(t)$ ハ共ニ、 $|t| \leq 1$ ニ於テハ $1 - |t|$ ニ等シク、 $|t| > 1$ ノトキニハ、 $f_1(t)$ ハ常ニ 0 デアリ、コレニ反シ $f_2(t)$ ハ週期 2 ノ週期函数デアルトスル。簡單ニ計算ノ結果

$$f_1(t) = \frac{2}{\pi} \int_0^{\infty} \frac{1 - \cos x}{x^2} \cos tx \, dx$$

$$f_2(t) = \frac{1}{2} + \sum_{n=0}^{\infty} \frac{4}{(2n+1)^2 \pi^2} \cos(2n+1)\pi t$$

テアルコトが分カル。コレハ、 $f_1(t), f_2(t)$ ハ共 = 特性函数テアルコトヲ示ス。然レニ、 $f(t) \equiv f_1(t)f_2(t) = [f_1(t)]^2$,
即チ $\mathcal{L} = \mathcal{L}_1, \mathcal{L}_2 = \mathcal{L}, \mathcal{L}_1$.

例 3 分解不可能 + 確率法則 $\mathcal{L}' = \text{シテ、シカモニツノ無限 = 分解可能 + 確率法則 $\mathcal{L}, \mathcal{L}''$ ノ商トシテ表ハサレルモ、(Lévy)$

$(2 + e^{it})/3$ ヲ特性函数ニナル確率法則ヲ \mathcal{L}' トスル。 \mathcal{L}' ハ明テカ = 分解不可能 ($\mathcal{L}' =$ 従フ確率変数ノトル値ハ $0, 1$ ノ只ニツクカテ); 一方 $(2 + e^{it})/3$ ハ t ノ函数トシテハ $0 =$ ナラヌカラ、 $\log\{(2 + e^{it})/3\}$ ハ $t = 0$ テ $0 =$ ナル分枝ヲトレバ一意ニ定マリ、ソノ虚数部ハ $-i\pi/6$ ト $i\pi/6$ トノ間ニアル。コレヲ Fourier 級数ニ展開スル:

$$\log\left(\frac{2+e^{it}}{3}\right) = \sum_{-\infty}^{\infty} a_n (e^{int} - 1)$$

$a_n > 0$ ナラバ、 $a'_n = a_n$, $a_n \leq 0$ ナラバ、 $a'_n = 0$,
 $a''_n = a'_n - a_n$ トスレバ $a'_n \geq 0$, $a''_n \geq 0$ ナリ

$$\log\left(\frac{2+e^{it}}{3}\right) = \sum_{-\infty}^{\infty} a'_n (e^{int} - 1) - \sum_{-\infty}^{\infty} a''_n (e^{int} - 1)$$

右辺ヲ $\psi_1(t) - \psi_2(t)$ ナリ表ハスト。§3 = 依リ、 $\psi_1(t), \psi_2(t)$ ハ共 = 無限 = 分解可能 + 確率法則ノ特性函数ナル事ガワカル。

例 4 無限 = 分解可能ナリ、シカモニツノ素ナル確率法則ノ積トシテ表ハサレル例 (Khintchine)

$$\frac{5+4 \cos t}{9} = \frac{2+e^{it}}{3} \cdot \frac{2+e^{-it}}{3} \quad \text{デアルカラ}$$

$\frac{5+4 \cos t}{9}$ ハニツノ素ナル、(≡分解不可能+) 確率法則

(特性函数)ノ積デアル。例3ト同様ニ、 $\log \left\{ \frac{5+4 \cos t}{9} \right\}$

ヲバ考ヘ、コレヲバ、 $\psi(t)$ トオキ $\psi(t)$ ヲバ Fourier 級数ニ展開シテ、コレヲ、non-negative +

係数ヲモツ三角級数ノ和ニ分テラルコトヲ示セバヨ
 1。